

企画展「心のゆくえ エッセイと作品」

かたちとかたち、ものともものが触れるとき、そこにはふたつのものの関わりが生まれます。

作品「昨日」で桃紅は、面と面との境界を自ら描く線で区切らず、描かず残したわずかな隙間によって表現しました。そこには、互いの領域を侵さず、かといって明確な線が必要とするほど反発し合うでもない、かたちやもの同士の穏やかな触れ合いが感じられるようです。

ものともものが、ふれあう、その、ふれあいかたに心がひかれる。波打ちぎわ、紙のやぶれ、きれの継ぎ目、たたみにふれる裾、土と雨、草と露…、そこには、微、妙の、いつさいが。(『桃紅えほん』2002年 世界文化社)



図版掲載「昨日」2001年  
和紙、墨、銀泥、銀地

- 会期…3月28日(日)まで
- 入館料…高校生以上300円  
中学生以下無料
- 休館日…月曜日(休日を除く)、  
および祝日の翌日  
(土・日・休日を除く)
- 開館時間…午前9時～午後4時30分
- 関連イベント…作品鑑賞会  
会期中第2土曜日(2月13日、3月13日)  
午後1時30分～2時30分 申し込み不要
- 照会先…篠田桃紅美術空間  
(市役所7階)  
☎23-7756

エッセイのこの文章からは、ものがつくりだす「際」「境」といった身近に数限りなくあるものに対する桃紅独自の視点、また鋭敏な感覚が伺えます。墨による抽象絵画で名高い篠田桃紅ですが、1979年に第27回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞するなど、その随筆家としての活動も高い評価を得ています。桃紅のエッセイは、独特の感覚や視点、文体によって綴られ、絵画というかたちでは描けない桃紅自身の心の動き、美意識といったものも垣間みられます。

今回の企画展では、桃紅の数ある表現活動の中でも特にエッセイというものに焦点を当て、ひとつの表現だけでは収まりきれない無限に広がる桃紅の創造の世界を紹介しています。

ひとひと  
女と男

ともに自分らしく生きよう vol. 66

「さんかくの木」 男女共同参画社会

このコーナーでは、葉に書かれた内容をさんかくサポーターが紹介していきます。

「今こそ支え合い社会を！  
男女共同参画の視点は女性のためではなく男性にとっても  
老若男女すべての人を生きやすくするものである。」

この言葉は、皆さんの心に留めていただきたい言葉です。男女共同参画というと「女性のための取り組み」と思われがちですが、男性にとっても重要な課題なのです。

ある講演会で聞いた「男性にとってのジェンダー教育が必要である」という大学教授の話を紹介します。ジェンダーとは、「男は男らしく、女は女らしく」という社会的・文化的に作られる性差のことですが、この教授によると、女性問題は男性がつくっていると云います。女性に家事、育児を押し付け、意思決定の場へ寄せ付けないとか、最近問題になっているDVやセクハラというものも男性からの暴力が原因とされます。

また、男性は男らしさに縛られているとも言います。常に相手より優位に立ちたいという意識、過労死するまで働くという意識が潜在し、これによって最近では精神的病に陥る人が多くなっています。このように男性には男として抱える生きづらさが存在します。

このようなことを解決するためには、子どものうちから意識的に教育していくことが必要であると言われました。どこから理不尽なことが起きているか追及することも大切だと思います。一人ひとりの意識の変化で、社会全体が変われることを願っています。



◀わかき・プラザ「学習情報館2階」  
男女共同参画コーナーでご覧になれます。

さんかくサポーター<M>  
<照会先>さんかくサポーター事務局 (企画政策課内) ☎23-6876